86
13
1961
86

壱色合點豆

遠
461
46

へ13
1961
86

口豆あるものいへども嘴乃青豆と知らず手豆あるものかけぞえ筆
豆の拙き成暁さず豆人形の虚名と貪りて御手小豆が九つとかぞへ
豆板は小利ふ走りて足と豆と踏ぶ暗ぶ浮世の豆右衛門あり
豆鮭蟹甲ふ似せく完成掘きこと思ひどうぬぐ紛れ味噌豆と煮に
豆殻と焼がごとくたのもし黒豆おとさ真暗ゆて云さうに空
豆ふ鉄炮とはふとこと浮ぶれ雲の福豆豈福茶ぶ柄拘ふあと
らんや隠元豆の禅味とあまんじて座禅豆ふ悟をゑ化きさ鬼打
豆と心の邪鬼と掃ひく一生ふ无事豆と祝ぶふ者ぶ自世乃流行ハ
豆蔵ふ品玉ふよりも早く豆と陶鎌で斬よりも速く塗箸で
豆ふとひしこと是ぶむれこあさぶ流行ゆくまふ此草紙も若
用ひらくあらばそれを煎豆ふ花ふ咲べし。

享和四歳次　　醒世老人
甲子春發兌　　山東京傳述

豆

金龍山

江戸前
大蒲
附わし

所休所
花長家元

豆

よんやさア

山東京傳戲作

萬重版

讀書丸

一包 十五粒入

壹包 百十二文
半包 五十六文

小兒無病丸

壹弘所
京傳店